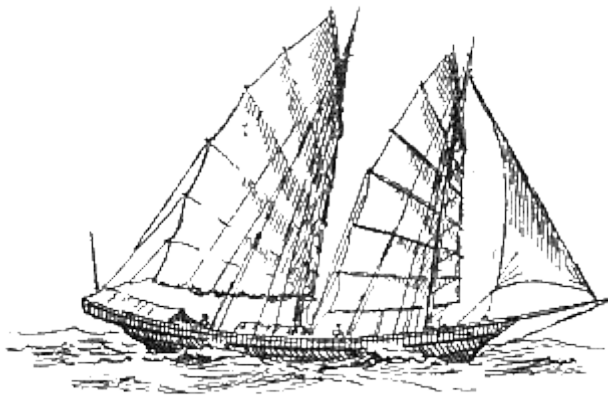


パレンバンの海軍力は19隻のジャンク船と10隻の penjajap だけであった。



<penjajap> 出典  
[http://www.thecheappages.com/smyth/mast\\_n\\_sail\\_10.html](http://www.thecheappages.com/smyth/mast_n_sail_10.html)

Pate Unus はポルトガル人が復讐にやっつけてこないかもしれないが、来るかもしれないと考えた。帰路に乗ったジャンク船は Jepara の付近に停泊していた。そのジャンク船はずっと国の誇りとなり、屋根の下でよく維持管理されていた。この攻撃によりジャワとマラッカとの商業関係は破壊されてしまった。ジャワの余剰農産物はマラッカに運べなくなってしまった。この農産物の輸出入収支の差から大きな利益を得ていたのである。以前は各種の交易品を積んでジャワに來航した多数の Gujarat、Keling、中国、ベンガル船は全く現れなくなってしまった。そこで住民たちは他の場所で儲け口を探していたのであった。

スマランの三保洞廟の資料と比較すると Tomé Pires のこの解説は 1509 年に Yat Sun という名の Jin Bun の息子が Kin San に付き添ってスマランの造船所を訪れたと断言している。1512 年に Yat Sun は紅毛で遠くから火器を使う南蛮人に奪われた Moa Lok Sa マラッカを急いで攻撃している。

スマラン廟の資料と Tomé Pires の 1512 年のマラッカ攻撃に関する記事を比較すると、Tomé Pires よると pate Unus とはスマラン廟の資料の Yat Sun と特定できるという結論が導き出される。Pires によれば、pate Unus は Demak の pate Rodin であり、一方スマラン廟の資料によると Yat Sun は Jin Bun の息子である。この件に関しては Tomé Pires の解説よりスマラン廟の資料の方がより信用できるのである。

Pate Unus は Demak ではなく Japara に居住していた故、Tomé Pires は adipati Unus は Demak の王の子供ではないと考えた。Demak 王の子として考えられていたのは Rodin Muda であった。Demak 出身の Rodin と Rodin Muda が誰を意図しているのかは後で述べることにする。

Pate Unus という人物はマジャパヒトと Demak の歴史を研究している専門家たちによって昔から問題になっていた。前でも述べた Wanneer ia Majapahit gevallen? 「いつマジャパヒトが崩壊したのか」という題の論文で G.P. Rouffaer はそれは 1518 年だと述べている。この年号は Pigafetta によるマジャパヒト王、Pati Ununs 王に関する資料によるものである。Rouffaer は Pate Unus が Demak を完全に支配したのは 1518 年から 1521 年までであるとはっきり発表している。1512 年に Pati Unus は肺腫瘍で死去した。Pati Unus は Babad Tanah Jawi での Pangeran Sabrang Lor<sup>22</sup> と特定される。Pangeran Sabrang Lor とは、海峡の北側に位置するマラッカに対する攻撃の影響による呼び名であると Rouffaer は解釈した。

H.J. de Graaf は Pangeran Sabrang Lor とは Tomé Pires 著の Suma Oriental 中の Rodin Yunior であり、他方 pate Unus は Jepara の領主であったと確信している。彼は Rodin Muda を退けることに成功した。<sup>23</sup>

R.A. Kern は de Barros 著 De Asia の意見に沿って、Pati Unus はスンダ王であったと推測した。この説はいまだかつて否定されていない。<sup>24</sup> <116>

Jin Bun の死後、最初の Demak のサルタンの交替は行われたと言ってもよい。スマランの三保洞廟の資料によると Jin Bun は 1518 年に 63 歳で死んだとある。その年にも Yat Sun が Demak のサルタンの地位に上った。1521 年に Yat Sun は Kin San 製造の大型の大砲を持ってマラッカを攻撃しようとした。彼は肺腫瘍で死んだ。この知見は、Pati Unus がクリスで刺殺されたという G.P. Rouffaer によって解釈された。Pati Unus の死亡に関する記事は、1552 年に Victoria 号が Timor に停泊した時と Pigafetta は述べている。

いずれにせよ、上記の資料を比較対照した結果に基づき、Pati Unus は Yat Sun と同一人物であると結論づけられる。

Serat Kanda と Babad Tanah Jawi からの Pangeran Surya と Pangeran Sabrang Lor に関するデータはどうやって解釈すべきなのであろうか。

<sup>22</sup> (訳)「北岸の王子」の意味

<sup>23</sup> B.K.I. No. 108, Tomé Pires 著”Suma Oriental en jet tijdperk van godsdienstovergang”の p159 参照

<sup>24</sup> B.K.I. No. 108, R.A. Kern 著”patu Unus en Sunda” p130-131

Babad Tanah Jawi によると Raden Adipati Bintara(Raden Patah)は六人の子供を残した。長女は Ratu Mas という名で、次に Pangerang Sabrang Lor でこの人はサルタンの継承者であったがその治世は長くはなかった。この人は子供を作らずに死んだ。そして Pangeran Seda Lepen、Raden Trenggana、Raden Kanduruwan、Raden Pamekas がいたのであった。

Serat Kanda は次のように述べている。Bintara 太守には三人の息子がいた。Sunan Giri の娘である第一夫人は Raden Surya と Raden Trenggana を生み、Randu Sanga 出身の第二夫人は Raden Kanduruwan を生んだ。第三夫人から Raden Patah は Raden Kikin と Raden Mas Nyawa を得た。Raden Surya は川の東側に住み Raden Gugur の娘の Retna Lembah と結婚した。

Babad Tanah Jawi は Pangeran Sabrang Lor が、Serat Kanda では Raden Surya が川の東側に住んでいたと述べている。〈117〉東か北かというこの記述の相違は大きな問題とはならない。Raden Surya の宮殿は、Tomé Pires 著の Suma Oriental からの出典資料に関係する記述だとすると Jepara に含まれるのだが、Tiduan 村やその付近の地域の Tanggul Angin 川の北側に位置しているはずである。

Pangeran Sabran Lor 別名 Raden Surya は Raden Patah 亡き後、続いて王位につかなくてはならなかったが、Raden Patah は 1518 年に死去している。スマラン廟の資料によると、Jin Bun と 1518 年に交替したのは Yat Sun であった。したがって Babad Tanah Jawi での Pangeran Sabrang Lo と Serat Kanda で川の東側に住んでいる Raden Surya は Yat Sun と同一人物であるということになる。Yat Sun は Suma Oriental 中の Pate Unus と同一人物であるから、Pangerang Sabrang Lor と Raden Surya は Pati Unus と同一人物となる。

1515 年 1 月 8 日の王への書簡の中で、Jorge d'Albuquerque は、ジャワでの危険人物は Pate Quitis, pate Amoz, pate Rodym と述べている。Pate Quitis はマラッカでのジャワ人の長である Pate Kadir を意味し、Pate Amoz というのは pate Unus で、Rodym とは Raden Patah である。三人とも当時まだ確かに生存していた。Pate Kadir という人物は 1515 年の Pires がマラッカに滞在していた当時、Cirebon に左遷された。その後彼はマラッカに戻ってきた。Alfonso d'Albuquerque がマラッカを離れた 10 日

後に Pati Kadir はマラッカでジャワ人反乱の指揮をとった。この反乱は失敗に終わった。Pate Unus 別名 Yat Sun は 1512 年末にマラッカを攻撃した。Demak のサルタンとしての Raden Patah はいまだマラッカのポルトガル人に対する強敵であった。

ポルトガルの史料と Pigafetta の資料で、かれは常に Pate Unus と呼ばれていたもので、Yat Sun の皇太子が Yunus というイスラム名を採用したことは事実から遠くないと思われるのである。この名前はマラッカ在住、また諸港湾都市に出稼ぎに行っているジャワ人たちに見られるものである。〈118〉しかし、スマラン廟の資料にはこのイスラム名が述べられていない。

Rodin に関する Tomé Pires の解説は次のようである。Rodin は Demak の王である。彼は広い視野を持ったクシャトリアで Gresik の pate Zainal と緊密な友好関係にある。ジャワ島の支配者のすべては親友であり、その権力を誇示するのを好んだ。彼は自分の娘や姉妹たちを有力な支配者たちに嫁がせて大変幸せであった。Rodin は 30,000 人の兵力と 40 隻のジャンクを有する海軍を持っていた。謀略により、彼は国の境界となっている Japura を占領した。Rodin には Tomé Pires の呼び方では Rodin Muda という名の息子がいた。Tomé Pires がマラッカにいた当時、彼は約 30 歳であった。Rodin Muda は Palembang と Jambi を奪うことに成功した。最後の五年間 Rodin Muda は戦うことはしなかった。彼は Melayu 人とポルトガル人に敵対していた。Rodin の出自に関して、Rodin は Gresik の使用人(奴隷)の子孫であると Tomé Pires は語っている。

Rodin が意味しているのは Raden Pata または Raden Adipati Bintara であると決定できる。Rodin は Raden のという呼び名の変形したものである。Tomé Pires がマラッカに滞在していた 1512-1515 年に、Raden Patah は存命であった。Raden Patah は 1518 年になって亡くなっている。したがって、すでに老人であった。Rodin Muda が意味しているのは、Demak に居住している Tung Ka Lo または Raden Trenggana という名の Yat Sun の弟であろうと思われる。Raden Patah は 1475 年前後に結婚したので彼は当時約 30 歳であった。Rodin の出自に関して Pires の知見は適切ではない。

## 第十一項 Arya Teja

Nic. Engelhardt の Serat Kanda<sup>25</sup>は、マジヤパヒト王に Wira という名の Tuban 太守が Wilatikta の tumenggung に引き上げられて Nambe という名の兄弟が Ngabei Teja になったと解説している。Ngabei Teja は後日 Arya Teja と名乗った。〈119〉Arya Teja は先祖代々のマジヤパヒトの重鎮であった。彼には Raden Teja Lampah という息子がおり、Teja Lampah の息子がマジヤパヒトの部隊長の Lembu Sura で、Lembu Sura の息子がマジヤパヒトの Wilatikta の領主になった。

Dr. J. Brandes の所有の Serat Kanda では Tuban 出身の tumenggung Wilatikta の Arya Teja の存在を述べている。さらに Babad Tanah Jawi の中で Tumenggung Wilatikta と Arya Teja の存在を述べている。

Babad Tuban<sup>26</sup>の中で、Rangga Lawe の父親である Aria Adikara が<sup>27</sup>亡くなった後、代々三代交替し、その後 Raden Arya Dikara に引き継がれた。Raden Arya Dikara は 18 年間 Tuban を統治した。彼には Raden Ayu Teja と Kyai Ageng Ngresah という名の二人の娘がいた。Raden Ayu Teja は Seh Ngabdulrahman と結婚した。この結婚から She Jalaludin が生まれた。Raden Ayu Teja と Seh Ngabdulrahman の結婚のおかげで Raden Arya Adikara は後日イスラムに入信することとなる。Seh Ngabdulrahman は Araya Adikara を Tuban 太守に交替させた。Raden Ayu Teja と Kyai Ageng Ngresah の子孫の結婚は Arya Teja の名前を保持することとなった。Tuban の Arya Teja の一族は大変有名であった。

Babad Tanah Jawi から、Tuban の Arya Teja 一族の中の Teja という名は実際に、マジヤパヒトの有力者である Raden Arya Adikara の子孫である女性の名に由来することがわかる。Raden Ayu Teja のみならず Arya Adikara も最初はイスラムを信じていなかったのである。

Babad Tanah Jawi の中で Raden Rahmat が Tuban の Tumenggung Wilatikta の娘の Ni Gede Manila と結婚したと言っている。〈120〉Raden Santri と Raden Burereh は Arya Teja の娘たちと結婚している。スマランの三保洞廟の資料では、Raden Rahmat

<sup>25</sup> B.K.I. No. 108 H.J. de Graaf p171 参照

<sup>26</sup> (訳) トゥバン年代史

<sup>27</sup> Wiraraja ともいう。Serat kanda と Suma Oriental は Tuban 太守を Wira と呼んでいる。

別名 Bong Swi Hoo が Tuban 港市の支配人の Gan Eng Cu の婿となった。Ni Gede Manila は Manila から連れてきた Gan Eng Cu の娘に違いないのである。

このスマラン廟の資料は Babad Tuban と関係させることが重要である。Raden Ayu Teja は Ngabdulrahman という名のムスリムと結婚したと断言される。このムスリムは後日 Arya Teja と名乗り、Tuban の太守になり Raden Arya Adikara の後任となった。19 世紀以前の国外への華人の移民は中国からの妻なしで出稼ぎに来ていた。Manila で Gan Eng Cu は Manila の女性と結婚した。この結婚から Ni Gede Manila が生まれた。Tuban 港市で Gan Eng Cu も Tuban の太守の娘の Raden Ayu Teja と結婚していてもおかしくはない。この結婚のおかげで、Tuban 太守は息子がいなかったので、Gan Eng Cu は舅の後をついで Tuban 太守となることができた。Gan Eng Cu は、Bong Tak Ken によって Manila から Tuban に、Tuban の華人ムスリム社会の長になるために移動去らせられたチャンパ出身のムスリムであった。彼は Tuban のイスラム華人の長であった。彼のイスラム名は Ngabdulrahman であった。この結婚のおかげでジャワ人社会では妻の名が Raden Ayu Teja であったので Ngabei Teja の名で知られるようになった。Serat Kanda によると、後日彼は Arya Teja の名で高官に引き立てられた。この arya の称号はどこから来たのであろうか？

スマラン廟の資料によると、マジヤパヒト宮廷の運営に Tuban 港湾長として功績があったので Su King Ta 王(Suhita 女王)から A Lu Ya の称号を 1423 年に Gan Eng Cu がたまわったとある。この下賜ゆえに Gan Eng Cu は Arya という称号を使う権利を有するに至ったのである。このようにして Raden Ayu Teja との結婚の影響と Suhita 女王から賜った Arya の称号の影響で、Tuban の Gan Eng Cu は Arya Teja の名で知られているのである。〈121〉この説は、Nambe が後日 Arya Teja の名で高官に取り上げられたという Serat Kanda の解説と合致する。

Serat Kanda 中で、マジヤパヒト王が Wira をマジヤパヒトの高官である tumenggung Wilatikta に昇格させたと解説している。Wira は Nambe 別名 Ary Teja の兄弟である。スマランの三保洞廟の資料によると Gan Eng Cu は確かに Gan Eng Wan という名の兄弟がいたとある。Gan Eng Wan は 1430 年から 1448 年まで Tuban の太守であった。かれは、ヒンドゥー教の熱心な信者のジャワ人が起こした反イスラム教徒への暴動で殺されてしまった。多数の華人ムスリムがこの暴動の犠牲となった。Tuban の

tumenggung Wilatikta が意味しているのは Gan Eng Wan である。Serat Kanda では Wira という名前で彼は知られている。彼は Raden Santri と Raden Burereh の舅であり、チャンパからジャワへ Raden Rahmat に同行した兄弟で友人でもあった。

Tomé Pires が Suma Oriental でまだ Tuban の pate Wira と呼んでいたゆえに、Tuban 太守としての Wira の名は 1515 年まで続いていたことがわかる。その当時に支配していた Pate Wira は Pires の理解では、急進的なムスリムではなかった。彼は内陸部の Jawa ヒンドゥーの人たちとも良好な関係にあった。Wira 太守は犬を飼育するのが好きだった。彼もポルトガル人たちと友好関係にあった。この友好関係が Tuban のムスリムたちの欠点になった。Pires によれば、pate Wira はジャワの王から anatimao de raja の称号を下賜された。その当時マジャパヒト王国の支配者は Demak のサルタン Jin Bun の義兄である Dyah Ranawijaya Girindrawardhana であった。

この Gan Eng Cu 別名 Wira も Ni Ageng Ngresah という名の Raden AryaAdikara の娘と結婚し、それゆえ Babad Tuban によると、この家族の二代目の間の結婚が Arya Teja の名を残すことになったに違いない。〈122〉はっきりしているのは 1515 年に Tuban は Wira という名の太守に支配されたことである。

## 第十二項 Sunan Gunung Jati

Babad Tanah Jawi の中で、サルタン Trenggana の娘が Pangeran Cirebon と結婚したとある<sup>28</sup>。しかしながら、Pangeran Cirebon とは誰であったかは書かれていない。Pangeran Cirebon とは Sunan Gunung Jati であると解釈できる。

Brandes が発表した Serat Kanda の中で、Sunan Gunung Jati も一緒になって Demak のモスクを建てたと解説している。Demak のモスク建設は Demak 軍のマジャパヒトへの攻撃の前に行われた。

ポルトガルの資料から、Sunan Gunung Jati は Tagaril という名であったことがわかっている。Tagaril と Sunan Gunung Jati が特定できたのは、故 Husain Jayaningrat 教授の 1913 年の *Critisch beschouwing van de Sejarah Banten* 「バンテン史に対する批判

<sup>28</sup> Babad Tanah Jawi (prosa) p74

的考察」という論文の功績のおかげである。Fern. Mendes Pinto は著書 *Les voyages Adventureux*「冒険旅行」で、1546 年に Tagaril はジャワ全土を支配している王からの命令をすでに 60 歳になっている寡婦の Nyai Pombaya から受け取ったと解説している<sup>29</sup>。ジャワの王が Blambangan の攻撃準備中であつたので、Sunda 王 Tagaril は 40 隻の船を率いて Japara に向かった。Panarukan 王は 2700 隻の船と 1000 隻のジャンク船で来襲に対抗する準備ができていた。王子と高官たちは拒否した。王の娘婿であるスダ王は Panarukan まで陸軍を率いた。しかしながらこの攻撃は失敗に終わった。Demak の王子は裏切りにより殺されてしまった。その遺体は Demak まで運ばれ埋葬された。これ以来国内で暴動が発生するようになった。〈123〉

Husein Jayaningrat 教授は、Faletehan (Sunan Gunung jati)はイスラム法学者であり教師でもあり、Pangeran Trenggana は塾生で義弟でもあつたという結論に行きついた。ポルトガルの資料によると、Faletehan は Pasai で生まれた低層家庭出身者である。

スマラン廟の資料では、1526 年に Demak 艦隊が Sembung のイスラム華人たちを征服するために西に向けて出港したと述べている。Kin San も老いたとはいえ中国語に堪能である故に同行した。この報告は Cirebon の Talang 廟の資料にある解説と合致する。このように言っている。

1526 年に、Demak のイスラム軍艦隊が Talang 港に停泊した。イスラム教徒の混血華人で中国語に堪能な Kin San も同行してきた。Demak の司令官と Kin San は Talang から、Sembung のイスラム法学者 Tan Eng Hoat が修行している Sarindil に向かった。Tan Eng Hoat と共に Demak 司令官は平和的に Sembung に入った。Demak イスラム王の名において Demak 司令官は Sembung のイスラム法学者の Tan Eng Hoat に称号を与えた。その称号とは Mu La Na Fu Di Li Ha Na Fi であつた。Demak 軍は船に戻り西に向けて航海した。Kin San は Tan Eng Hoat の客人として一か月間滞在した。

この Demak 軍司令官とは誰であつたかを、Demak 軍司令官が Talang を再訪したので、四半世紀後の Talang 廟の資料が解説している。このように言っている。

四半世紀後、この Demak 軍司令官が一人で Sembung を再訪した。Tan

<sup>29</sup> P172-180



Eng Hoat は大変驚いた。この Demak 軍司令官はバンテンの元のイスラム王ではなかったか!彼は Demak で Jin Bun の子孫たちの間での殺し合いの話を聞いて失望した。Pajang 王国はシーア派が発達していたので、彼は Pajang 王に従いたくなかったのである。彼は死ぬまで Sarindil で修行することを目的としていたのであった。

Tan Eng Hoat は、Sembung の華人ムスリム社会はすでに四半世紀にわたり雲南のイスラム社会との連携が途切れていると教えた。〈124〉その反対に、非ムスリムの福建省の華人の子孫がとても強力になっている。彼自身は福建人の子孫であった。ほんのわずかの福建人がイスラムに入っているだけであった。

Tan Eng Hoat は元 Demak 軍司令官に、Jin Bun が Demak でやったようにサルタン国を建国する方向で Sembung の華人ムスリム社会を指導してくれるように頼んだ。これこそが Sembung の華人ムスリムたちをイスラム教徒のままにしておくべく保証する唯一の道であった。

元 Demak 司令官は、老いたりとはいえ、この依頼を受諾した。

このような経緯で 1552 年にも、現在の Kesepuhan においた王宮を中心として、Cirebon サルタン国が建国された。Sembung はそのまま取り残されイスラム墓地となった。一握りの Sembung 住民が移住した。彼らはイスラム名と現地語名を使った。Sembung 村の住民たちはイスラム中心の軍になった。非ムスリムの華人たちは元 Demak 軍司令官が形成したイスラム軍に服従した。この元 Demak 軍司令官は初代の Cirebon のサルタンになった。

1533 年に、Cirebon のサルタンは Tan Eng Hoat の子である Sembung の娘と結婚した。この華人女性は Sembung から Cirebon の王宮に、Tan Sam Cai という名のいところに随行されて大々的な儀式で引っ越した。Tan Eng Hoat は名前を Pangeran Adipati Wirasanjaya に変え Kadipaten に居住し Sri Sultan の最高顧問になった。

Sri Sultan は 1570 年に死去し、華人女性から生まれた息子に代わった。まだ若かったので、その名を Muhammad Syafi'i と変え Tumenggung Arya Dwipa Wiracula の称号をもった Tan Sam Cai に彼は育てられた。しかしながらイスラム名とインドネシア

名は使われたことがなかった。〈125〉

スマランと Talang 廟の資料の解説から、Cirebon の初代サルタンは Banten の初代サルタンと同一人物であることがはっきりした。かれはイスラム名で Syarif Hidayat Fatahillah でイスラム法学者 Sunan Gunung Jati として知られている。まだはっきりしていないのは、Sunan Gunung Jati と Demak の Pangeran Trenggana とがどういう家族関係であったかということである。

Babad Tanah Jawi と Fern. Mendez Pinto は Sunan Gunung Jati (Tagaril) が Demak の Pangeran Trenggana の娘婿であったと述べている。Husein Jayaningrat 教授は義兄でかつ pangeran Trenggana の師であったと言っている。1913 年に Husein 教授がこの論文を書いた時にはまだスマランと Talang 廟の資料は全く知られていなかった。Sunan Gunung Jati は常にバンテンとチレボンのサルタンとして特定されるが、この二つの資料は Sunan Gunung jati の身元を知るうえで極めて重要である。

Babad Tanah Jawi (p61) は Ratu Mas という名の Sultan Bintara の長女が Pangeran Cirebon と結婚したと確かに述べている。しかしながら、Babad Tanah Jawi の 74 ページでも Pangeran Trenggana の四女が Pangeran Cirebon と結婚したと述べている。Babad Tanah Jawi の解説は混乱していると思われる。正しいのは 1526 年に Sunan Gunung Jati が Demak 軍の司令長官になったということである。司令長官として彼は pangeran Trenggana によって Sembung と、1522 年 8 月 21 日以降 Enrique Leme が代表であるポルトガル側との要塞を Sunda Kelapa に建てる契約を果たそうとする Sunda Kelapa 征服のために派遣された。Sembung は Demak に屈服しポルトガル人たちは Sunda Kelapa から追い払われてしまった。この Demak 軍司令官は後日取り上げられて初代の Banten サルタンになった。

司令長官の地位は一国の生命を左右する地位である。ゆえに、きわめて重要な地位である。征服された国の王を決める司令官の指示は、当該司令官と王との家族関係の存在によってふつう決まるものである。王との家族関係で親密な人だけがこのようにして昇進を得るのである。

Demak での有力者たちは一般的に混血華人であった。Jin Bun 自身も混血華人であったのでこのことは理解できるであろう。Kin San はスマランで全権力をにぎる太守

に取り上げられた。Gan Si Cang は非ムスリム華人を統括し造船所長である華人の長になった。Pangerang Trenggana は Sunan Ngampel の子孫との間の Jin Bun の息子であった。彼も華人の血を引き継いでいたのは明確である。重要な地位である軍司令官の地位を王が信頼できる混血華人に与えたのは当然のことである。はっきりしているのは、その名が Toh A Bo であるから、1527 年において Demak 軍司令官が華人であったということである。Girindrawardhana 王がポルトガル人たちと関係を持っていたので Girindrawardhana 王に罰を与えるために彼はマジャパヒトに派遣された。軍司令官 Toh A Bo は Pangeran Trenggana の実子であった。Demak 軍の Sunda Kelapa への派遣とマジャパヒトへの派遣の時間的差はたった一年であった。Sunda Kelapa に派遣された司令官とマジャパヒトに派遣された司令官が同一人物であったとしてもおかしくはないと思われる。この Demak 軍司令官への Pangeran Trenggana の信頼は極めて深かった。この件は 1546 年の Panarukan への Demak 陸軍を率いるための Tagaril の呼び出しがその証拠となっている。Tagaril は Pangeran Trenggana の命令に従順であった。

Demak 軍司令官と Tan Eng Hoat との関係は実際極めて密接であった。司令官は Sembung の華人ムスリム社会を指導して欲しいと頼まれ、Demak で Jin Bun がやったように Cirebon に新しいサルタン国を建てたいと頼まれたのであった。〈128〉華人イスラム社会の指導者は華人ムスリムかあるいは最低でも混血華人であることがもとめられた。最終的に彼は華人女性と結婚した。

上記の件は、Sunan Gunung Jati は 1527 年にマジャパヒトに派遣された Demak 軍司令官の Toh A Bo であるという結論に我々を引き付ける。彼は Pangerang Trenggana の実子であったのである。

訳出終了 2015/8/31

校正 2015/9/1、2015/10/05

